Ⅰ　令和６年度事業報告

1　令和６年度事業実施概要

国際情勢はウクライナやパレスチナの状況が不透明な中、第二次トランプ政権の樹立によって、益々、混迷の度合いが深まろうとしている。国内では日銀が金融政策の転換を示唆する中、ようやく円安傾向に歯止めがかかる気配を見せながらも、物価高は継続しており、消費者マインドの改善にはいまだ至っていない。

畜産経営においては、継続する円安傾向に国家間での飼料原料獲得競争の激化が拍車をかけ、今年度も引き続き、厳しい経営環境となった。

酪農では飼料価格の高止まりにより、収益改善について、困難な状況が継続している。

肉用牛でも厳しい環境は同様ながら、肉用牛、肉用子牛ともに、価格低下に伴う補給金及び交付金の発動があった。

一方、家畜衛生関連では、県内での発生はなかったものの、全国では高病原性鳥インフルエンザが、14 道県 51 事例の発生が確認されており、昨シーズンより多い発生状況となっている。豚熱についても、依然として野生イノシシの陽性が確認されており、バイオセキュリティ強化が必須となっている。

当協会では、県予算による飼料価格高騰緊急対策事業をはじめ、畜産クラスター機械導入事業や畜産ＩＣＴ事業、楽酪ＧＯ事業、肉用子牛補給金制度や牛マルキン制度、バイオセキュリティの強化等に取り組んだ。

乳製品の消費拡大については、県および関係団体と連携しながらイベントに取り組んだ。

また、畜産女性を中心とした農業高校出前授業を開催し、畜産業に対する理解醸成を図り、県産食肉の消費拡大については啓蒙グッズを作成し、国産食肉フェアを実施した。

一方、事務局を預かる活動については、生産者の切なる課題を県議会及び各関係機関に要望するとともに、消費者に対しては、畜産物の消費拡大が生産者の応援に繋がることをメディア等に訴えた。

2　令和6年度の主な行事　　（令和7年3月末日現在）

年	月	日	行　事　内　容
6	5	30～31	（一社）三重県畜産協会 定期監査会
	6	14	（一社）三重県畜産協会第1回理事会
		28	（一社）三重県畜産協会 定時総会
		28	（一社）三重県畜産協会第2回理事会
	9	10	農業関係団体と三重県知事との意見交換会
		13	三重県畜産研究所 第1回研究評価委員会
	10	24	（一社）三重県畜産協会 第3回理事会
7	2	3	会計検査院会計実施検査
	2	27	（一社）三重県畜産協会 第4回理事会(書面決議による)
	3	14	三重県畜産研究所 第2回研究評価委員会（事後評価）
		19	（一社）三重県畜産協会 第5回理事会

3　会員の状況　　（令和7年3月末日現在）

	期首	増加	減少	期末
正会員	３６	０	１	３５

4　職員に関する事項　　（令和7年3月末日現在）

	期首	採用	退職	期末
正職員	5	0	0	5
嘱託職員	5	0	0	5
臨時職員	1	0	0	1
パート職員	2	0	0	2
合　計	１３	０	０	１３